

受賞記念講演：「ポンシアノ・サバド・インタル氏のご功績を偲んで」

西村 英俊 ERIA事務総長

「碩学（せきがく）」という言葉があります。これは学者に対して尊敬の念を込めて使われる言葉ですが、インタル博士はまさに「碩学」な、素晴らしい学者でした。

ERIAの設立当初、研究者を採用しようと説明会を行いました。誰も興味を示さず、説明者の方が聞く人よりも多いような状況でした。しかし、そのわずかな参加者の中におられたのがインタル博士です。

研究者として既に素晴らしいキャリアを持たれていたにも関わらず、博士は設立されたばかりのERIAに興味を持ち、応募してくださいました。それが博士と私たちの始まりでした。

なぜそのような素晴らしい経済学者が、新しく設立されたばかりのERIAに応募されたのか、亡くなられた後で家族の方からお聞きしましたが、博士は残りの人生を博士の出身のフィリピンだけでなくASEAN全体の発展に捧げたいと考えておられたのです。

博士は非常に長期的なビジョンをお持ちで、ERIAから出版されたASEANのあらゆる長期ビジョンは、博士が責任編集されたものです。

昨年、私は光栄にも、公式にASEANのサミットに招待され、ERIAとして国際提言を行いました。博士のおかげで、ERIAは設立後15年をかけて、ここまで来ることができました。博士のご尽力がなければ、ERIAは現在の国際機関へと成長することはできなかったでしょう。

博士のERIAでの最初の功績は、「ASEAN経済共同体2015」の中間評価と2015年以降のビジョンをつくることで、そのプロジェクトを陣頭指揮され、最終的には5000ページにわたる膨大な調査を完成されました。この調査研究が基礎とな

り、次に「ASEAN経済共同体2015」完成以降の長期的課題を取りまとめた「アセアンライジング」を出版しました。

博士の業績は、経済分野に留まらず、社会や文化についても及び、「ASEAN Socio-Cultural Community Blue Print 2025」の基礎となる研究も完成されました。

これらに加え、今日でもASEAN各国の経済政策の中で活用されている、「ASEAN Seamless Trade Facilitation Indicators」や、「ASEAN Regulatory Management System」といったASEANの規制改革に関わる取組を実施してこられ、これらはASEANやOECDに大きく貢献しました。

博士の最後の大きな仕事は、ERIAがタイ外務省と策定した「ASEAN Vision 2040」です。今日のアジアにおいて世界中から注目されている、インド太平洋におけるASEANの見通しに関する基礎研究等を含んだ、大変大きな業績でした。

「ASEAN Vision 2040」の完成後程なく病床に付かれたが、博士は常にERIAの調査の進捗を気にかけ、逝去される前日まで同僚を指揮・指導されていました。まさに「碩学」、そして「義理」と「人情」と「根性」の方でした。

博士のメモリアル賞受賞は、満場一致で決定しました。ASEANの経済発展と、国際機関としてのERIAの評価を確固たるものにする上で、多大なる貢献をされた博士に本賞が贈られることは同じくASEAN発展のために戦ってきた同志としてとても誇らしく思います。改めて、博士に心からの感謝の意を表します。

